# 建築計画研究室

Architectural Planning Lab.

朽木 順綱

KUTSUKI, Yoshitsuna / Lecturer

# 湖霖を張る　語り継がれるだけの行く先を想う

To Flood the Lake: An Inspiring Piarchitecture that will be Passed down for Generations

山梨県の山の奥地には現代まで手付かずの美しい
湧水湖「四尾連湖」がある。その神秘さ故に
湖畔から離れた麓に先人たちは集落をつくり
四尾龍伝説と雨乞い信仰を受け継いできた。

その雨乞い唄には、草木を潤す雨に感謝する
「りん」
という語感が大切に使われている。

雨乞いを介した純粋な信仰と願い奏でるような
舞踊りの情景を描き、今も集落にだけ口伝えで
受け継がれているという。

そうして四尾連湖と特別な関係を築いていた集落が
現代になるほど人口は減少。雨乞い文化や伝説は
衰退し、湖一帯は聖域から秘境の観光地へ。

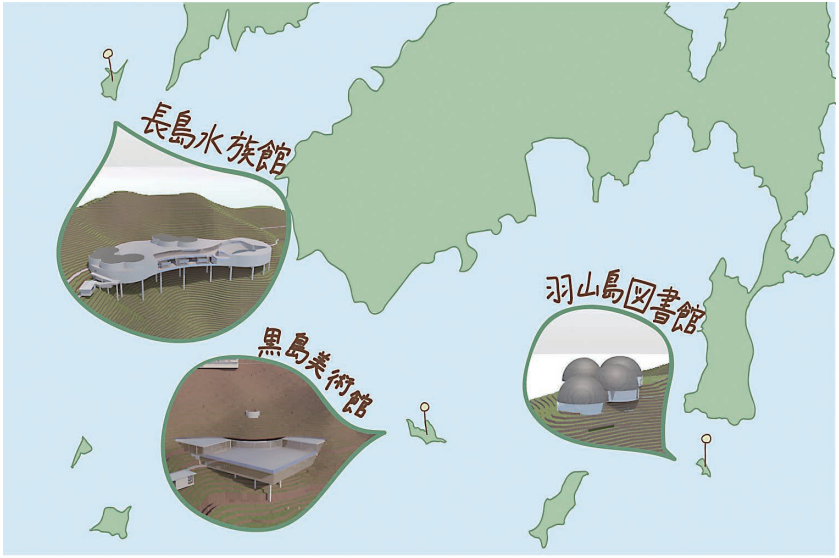
自然と人の調和を願う確かな形が消えつつある今、
集落の文化や想いの行先としての建築を提案する。

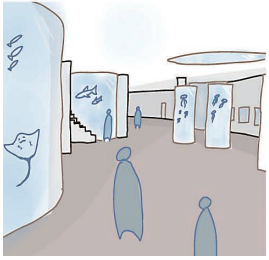
吉本 詩文
YOSHIMOTO, Shimon

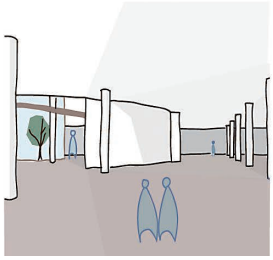
# 閃光と共に旅立つ螢達へ。

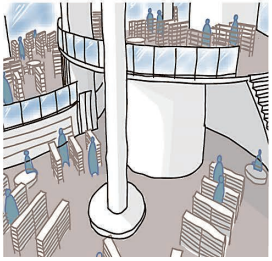
Life in Technicolor









戦争や争いに胸を痛めている人は、世界中にいる。しかし、「戦争」という言葉では表しきれないほど大きな問題を、簡単に解決することはできない。

だから私は、「願いの島」という空間を作った。ここを訪れる人々が、かけがえのない時間を過ごし、心温まる思い出を胸に刻んで帰路に着いてほしいと願っている。そしてその人だけの特別な記憶が、ここで生まれることを願っている。

一人ひとりが幸せを感じる瞬間。その瞬間の積み重ねが、平和な世界への小さな一歩になると信じている。そして、いつの日か幸せの蛍たちが輪となって広がり、優しい光で世界を包み込み、誰も傷つかない世界が実現することを願っている。

井上 彩
INOUE, Akari

# 雫のほとぼり、 ハス池に浮かぶ、空模様のカタチ

The Aftergrow of a Drop: The Shape of the Weather Floating on the Lotus Pond

自然のリズムは生きるリズムだ。

ここは緑の都市、服部緑地に浮かぶ「山ヶ池」。
水に浮かぶハスの葉は風の吹くままにゆられ生きる。
のびのびと咲く花々。繋がり合う自然。
私たちは時の流れを真に受けて、
想いのままに歩みを止めない。

ここは自然の巡り合わせ。

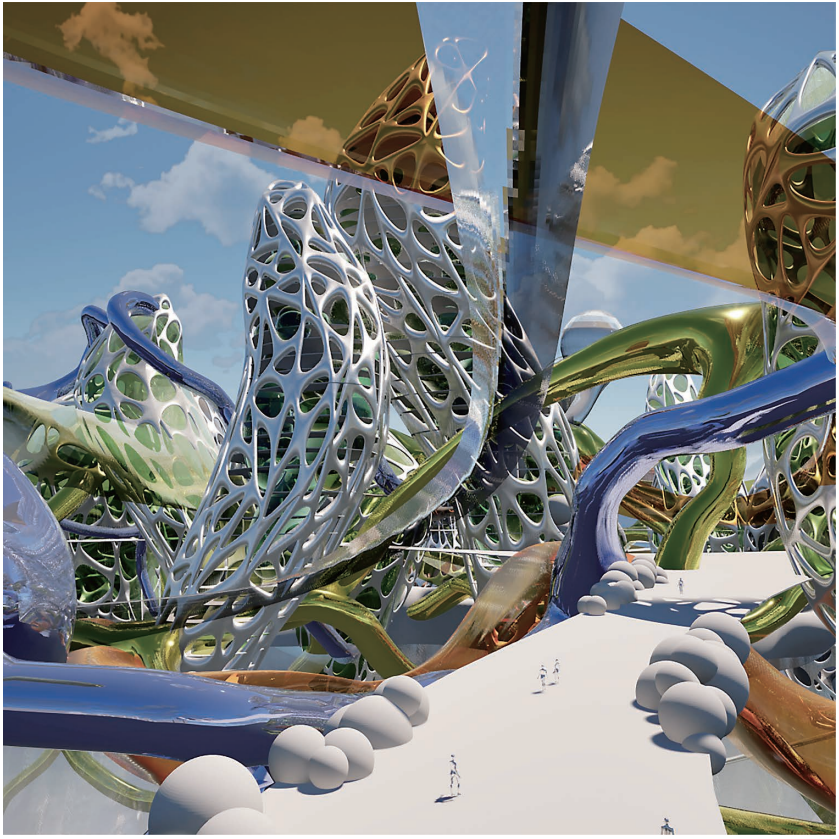
異なるカタチが一緒になって遊ぶ。
変わりゆく時を見逃さぬよう、流れに身を任せ。
大地が生き返る頃、私たちは前を向き発見へと出向く。

「さあ、明日天気になあれ」

今藤 千咲里
IMAFUJI, Chieri

# 微生界（ビオトープ）　——生物が息づく未来拠点——

Biotope: A Future Center where Living Organisms Live and Breathe



かつて人類は自然を押し退け、都市を築いた。その繁栄は地球を蝕み、命の循環を途切れさせた。破壊された環境、生物多様性の喪失、人類が立ち止まらなければならない時が訪れた。そんな未来を救う鍵が「ミクロな命」にあることを、誰が想像しただろうか。

粘菌が織りなすネットワークは、島全体を繋ぐ柔軟な交通網となり、放散虫から学ぶ構造が建築物の基盤となった。微生物は廃棄物を分解し資源に還し、植物は空気を浄化する。こうして、島全体が一つの生命体として機能している。

ミクロな命が織りなす仕組みが、マクロな都市全体を支える希望となり、持続可能な未来を形作る。この地「微生界」は、命が繋がる新たな可能性を静かに示している。

ここに息づく生物たちの調和が、未来にどのような変化をもたらすのだろうか。この地で繋がる命が、どんな希望を描いていくのだろうか…

審査会賞
（インテリア部門 第1位）
特別審査員賞（伊倉泰賞）

**梅林 向日葵**
UMEBAYASHI, Himari

# 白昼夢光線　唯一無二なあなたへ

DayDream Beam: To One and Only You

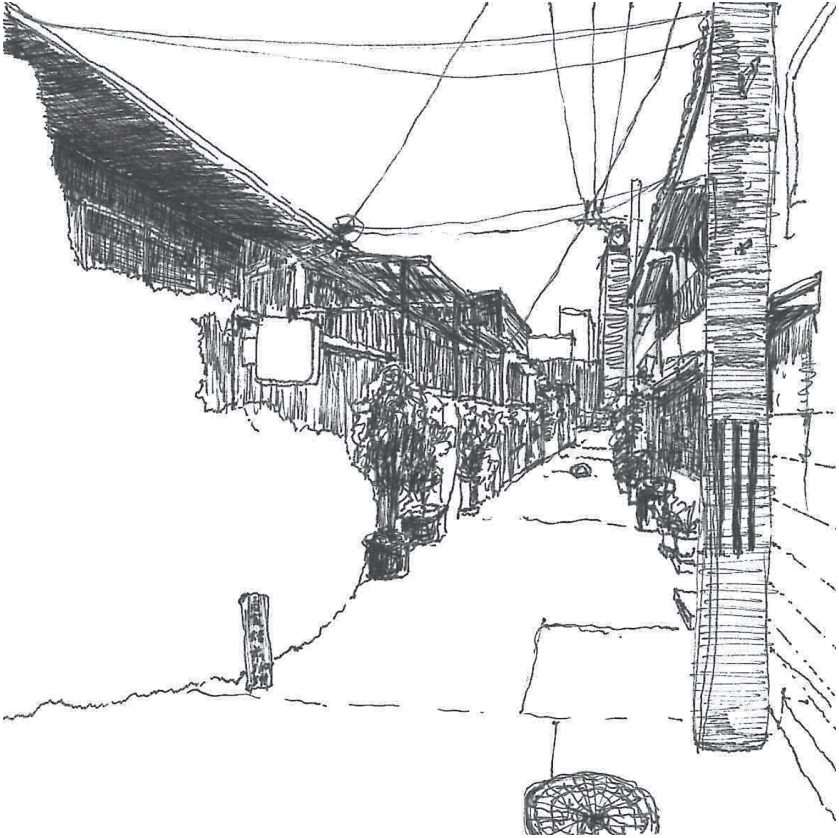
アイデンティティとは、日常的無意識思考「白昼夢」
人は無意識に妄想する、それ故、
白昼夢で人は世界を救うヒーローになれる。
白昼夢で人は前に座る人物の生活を創る。
白昼夢で人は嫌いなあいつに天罰を下す。
白昼夢で人はあくびの軽さに思いを馳せる。
　面白味は人の数だけ存在する。
そう、アイデンティティとは生まれながらに
海の水のように白昼夢の中に存在する。
　本作品は、貴方の白昼夢を揺さぶり駆り立て
膨張させる増幅器である。
作品を浴びる。想造する。
その過程に貴方のアイデンティティの輪郭が見える。
「いざ、白昼夢世界へ」

加納 滉大
KANO, Akihiro

# 感覚するトポフィリア

Sensory Topophilia





これは、現代に残り続ける豊かな空間を記録するための建築である。

大阪市浪花町には、大阪大空襲から逃れた昔ながらの町並みがある。色褪せた壁、錆びたトタン、きしむ木材、それらが歴史を語り、時を刻んできた。鉢植えの草花や木々が風に揺れ、喫茶店のコーヒーの香りが路地に漂い、生活の中にあるささやかな音が聞こえる。

それらの瞬間がこの空間の豊かさを形成し、風景が記憶を紡いでいる。これからもこの場所を残し続けるために、私は記録する建築を提案する。

川畑 拓士

KAWABATA, Takuto

# その時、僕は君を飛び越えた。 猫と人間の出会いの場

That's When I Jumped over You: A Place where Cats and Humans Meet

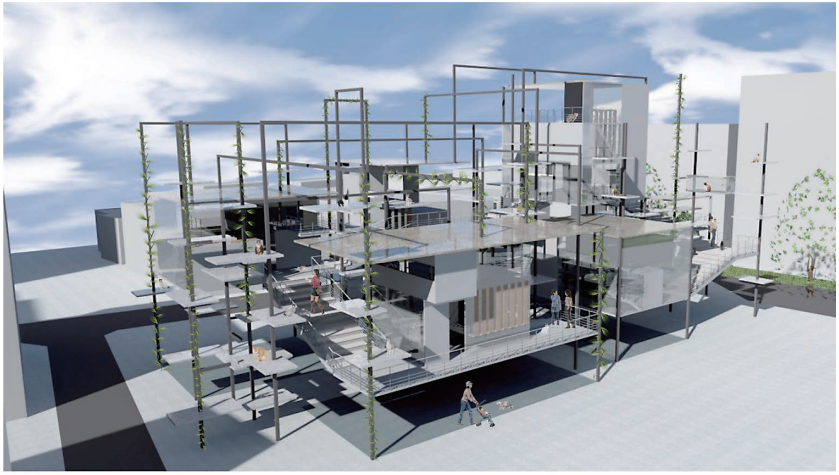
僕の特等席へ案内してあげるよ、
中津駅と中津商店街を繋ぐ道がよく見えるんだ。

毎日同じ時間に散歩するおじいちゃん、
電車の時間に間に合うように急ぐサラリーマン、
商店街へと楽しそうに歩いていく子供達、
みんな自由気ままに、おもむろに。

今日も君は会いに来てくれるだろうか。

この日当たりが良い特等席で、
君と共に日向ぼっこをする。
同じ高さ、同じ目線で、同じ風景を見たいんだ。

その時、僕は君を飛び越えた。



小林 千咲
KOBAYASHI, Chisaki

# 「茶番」に支えられて生きている。 人魚にすがる現代人

We Live by the “Farce.”: Modern Man Clinging to Mermaids

昆布巻き食べてよろこんぶ。

茶番だと思った。

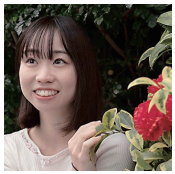
文化をはじめ、する必要のないことをしないという現代人は増加傾向にある。ただ現代では無駄を排除すると、テクノロジーの発展により1人で物事を完結させ、コミュニティー不足へ陥る。そして、コミュニティー不足は無意識化でストレスを構築し、無気力人間を生成する。そして近年、生きる意味を見失う若者が増加している。

だからこそ私は思う。「茶番」は生に必要不可欠なのだと。むしろ私たちは「茶番」に支えられて生きているのだと。

そこで私はこの効率性に満ちた工業地帯に、アートとしての「茶番」で形成された広場を提案する。この広場は、現代人が自身の生を再認識し、コミュニティの大切さを実感できる場となるだろう。

**坂本 理寿**

SAKAMOTO, Rizu



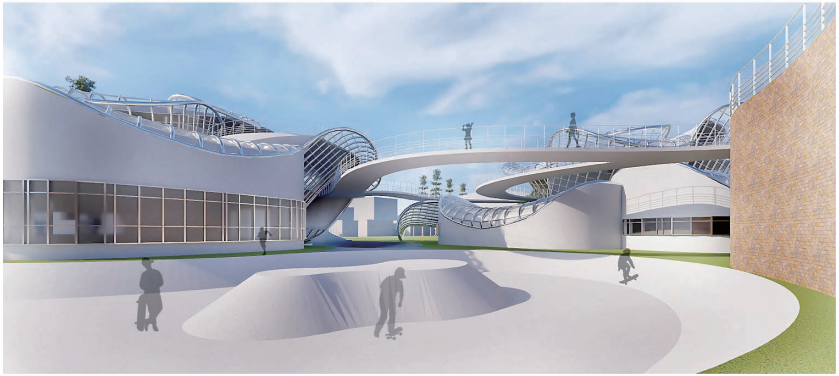
# 好きに学べ　記憶に残す音空間

Learn as You Like: Remembering this Sound Space

「学生時代という限りある時間が、記憶に残る良い思い出となりますように。」そんな願いを込め、小学生のための教育施設兼、地域交流の場となる空間を提案する。

人の話し声や足音、鳥の声、葉の擦れる音、様々な音の記憶に着目し、その視点から素材や空間の配置計画を行い、教育施設の他、地域の人々が利用できる図書館や公園を設計した。

好きな音空間を見つけ、好きに学ぶ。それぞれ異なる音が響く空間で、子供たちと地域の人々がのびのびと交流する。そしてふと思い出すとき、この空間の音と共に、懐かしい記憶が鮮明に映し出されるような空間を目指した。



インテリア部門賞

早川 琴乃

HAYAKAWA, Kotono

# 燦燦　観光と生業をつなぐ交流施設

"Sansan": A Community Center where Tourism and Livelihood Intersect

近年、ヨーロッパを中心に、観光客が地域農業に参加し、自然体験・農業体験を行う『アグリツーリズム』が知名度とその活動範囲を広めている。文化的側面を持つ農産物が多いヨーロッパでは、旅行体験の新たな選択肢であると同時に農業を支える重要収入源である。

日本では、例年食料の自給率は右肩下がりの傾向で、日本の第一次産業は弱体化の一途をたどる。さらに都市部への人口の周密によって、我々は農業や地方の暮らしからどんどん遠ざかっていくように思う。

本設計では、観光産業の盛んな奈良県明日香村を舞台に、農業と観光の交差が人々に安らぎと経験をあたえる新たな滞在体験の選択肢として提案する。

森 淳之介
MORI, Junnosuke

# 回遊の宿　室戸の自然が織りなす五感の旅路

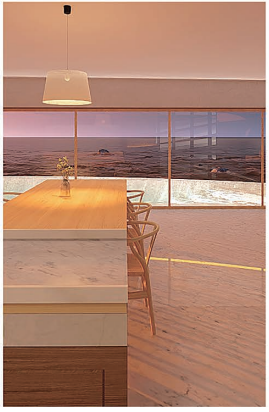
The Flowing Villa: A Journey of Five Senses Woven by the Nature of Muroto

四国最南端、高知県室戸岬は、悠久の時を語る地層、一面に広がる太平洋、そして広大な空が織りなす壮大な自然を擁する特別な場所です。この豊かな環境を背景に、三棟の宿泊施設を設計しました。それぞれに「地」「海」「空」をテーマとし、自然との深い調和を追求した新たな空間体験を提案します。

渦巻き状の造形は、波、風、大地のうねりを象徴し、それぞれのテーマに基づく自然の法則やリズムを空間に写し取っています。この形態は自然のエネルギーを建築に投影し、さらに室内空間へとつながるデザインを生み出します。

空を仰ぐ解放感、海に包まれる静寂、大地に抱かれる安心感。この三つのテーマが織り成す空間体験は、室戸岬でしか味わえない特別な時間を提供します。

室戸岬の豊かな自然環境を最大限に活かし、建築とインテリアが一体となった空間を通じて、人と自然がつながる新しい体験を創出します。

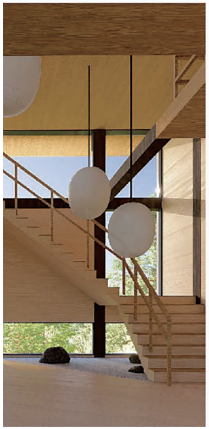


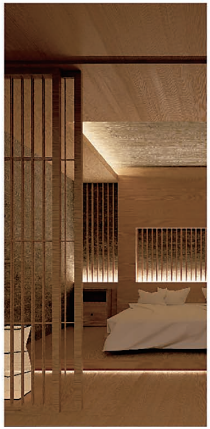
審査会賞
（インテリア部門 第2位）

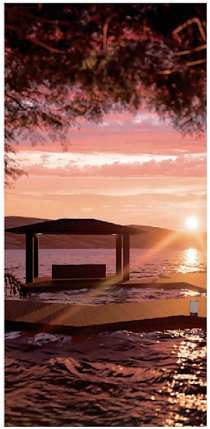
**安田 波瑠輝**
YASUDA, Haruki

# 宿 — 百游　九十九湾の岬で百の好きに浸る

Yado — Hyakuyuu: Bask in a Hundred Favorites at the Cape of Tsukumo Bay







私は旅館の郷愁漂う空間が好きだ。一方、現存する旅館は旅館ならではの不自由さがある。そこで私はホテルのような快適性と旅館のもつ和の風情を併せ持つ「コンテンポラリー旅館」を提案する。

計画地は石川県能登半島北部の九十九湾に面した越坂岬で、複雑な地形と穏やかな海、緑豊かな自然に囲まれた場所である。

宿は地形を活かし「レセプション館」「客室棟」「食事処」「エステ・貸切風呂棟」「船着き場・海辺デッキ」の5つに分かれて佇み、それぞれ趣の異なる廊下で繋がる。

照明の演出や空間構成要素、マテリアル、モジュール等にこだわり、快適性と和の風情を併せ持つラグジュアリーな旅館を目指した。

“九十九”湾に一つ魅力的な宿をつくることでこの地を“百”の魅力ある場所に。“たくさん”を“百”という言葉にあて、一か所に留まらずたくさんの空間で体験・滞在を楽しむという“游”と合わせ、この宿を「百游」と名付けた。

審査会賞
（インテリア部門 第3位）

**柳原 一輝**
YANAGIHARA, Kazuki